

平30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	組織的授業改善に取り組み、生徒の主体的な学習の推進と基礎学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒自らが考える学習活動の推進を図る。</li> <li>②生徒が主体的に学ぶ授業を、継続的かつ効果的に展開して基礎学力の向上と発展的思考力を身に付けさせる</li> <li>③教科とグループが連携を取り授業改善に向けた具体的な取り組みを推進していく。</li> <li>④豊かな人間性を育み、国際社会で活躍する人材育成を目指して、さらなる国際理解教育の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「主体的な学習」の動機付けを目的に、「PDCAシート」等の作成と利用を検討する。</li> <li>②生徒による授業評価の結果分析をもとに、今年度の授業改善目標を設定して取り組む。</li> <li>②教員間の授業互見をより活発に行い、アクティブラーニングの視点を取り入れた授業改善実践する。</li> <li>③各教科で授業改善の目標や教材の共有を図り、定期試験問題や評価方法の共通化、より適切な評価方法の再検討を目指す。</li> <li>④海外修学旅行、国際理解講演会、大学留学生との交流会、英語によるスピーチフェスティバル、異文化体験教室等国際理解・交流に関する様々なプログラムを生徒に提供することで、異文化理解や他者理解を進め、自己理解につなげるとともに英語活用能力の向上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①家庭学習の時間が昨年度よりも増えたか。</li> <li>②生徒による授業評価の項目1「教材の工夫」と項目4「話し合いや意見などの発表」で評価の平均値が3.2以上となったか。</li> <li>③教科内で指導内容や定期試験問題、教材、評価方法などを共有、改善することができたか。</li> <li>④国際社会で必要とされる資質を高めるためのプログラムが生徒の意欲や行動の変化につながったか。</li> </ul>					
2 生徒指導・支援	きめ細かな生徒指導と教育相談体制により、生徒の心身の成長を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の規律意識や生活習慣等の生活指導を継続していく。</li> <li>②交通安全や薬物、インターネット等に対する生徒の意識改善に取り組む。</li> <li>③部活動、生徒会行事、ボランティア活動、地域貢献活動等の体験を通じて、他者理解を深め幅広い人間力の向上と自分の考えを積極的に表現し行動できる力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①いじめ防止の観点から生徒の日常生活の様子を十分に観察し、未然防止を図る。</li> <li>②生徒の人間性の成長を育むとともに、生徒の些細な変化に対応できるような職員研修を実施する。</li> <li>③仮入部期間を十分に設ける。また、部活動説明会の形態を各々がブースを設けた説明にする。</li> <li>③生徒会行事「宿志祭」などで伊勢原養護学校分教室と連携し、両校の生徒同士が主体的に考え、協働して成し遂げられるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①いじめ防止に向けた取組を推進し、未然防止をすることができたか。</li> <li>②最新の知見を得るための職員研修を行えたか。</li> <li>③部活動の入部率向上や活性化が図れたか。</li> <li>③生徒会の行事についてアンケート等で検証し成果や今後の課題が見出せたか。</li> </ul>					

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				③全生徒が自らの意思で参加する地域貢献やボランティア活動等を積極的に取り組むように支援する。	③地域貢献やボランティア活動の体験者数は増えたか。					
3	進路指導・支援	キャリア教育を充実させ、生徒の人間力の拡大と高い進路実現に努める。	①進路指導プログラムの精査を行い、進路や生き方についての生徒の意識を高めるための指導方法の研究を進める。 ②進路希望実現に向けたキャリアプランニング能力の育成と個別の進路支援の充実を図る。	①ICT機器を活用した進路指導を進め、生徒の学習意欲の喚起、学習方法の改善を行うことで、進路指導の質の向上を図る。 ②スタディサポート、GTEC(英語コミュニケーション力総合テスト)や模擬試験などを活用し、個別指導の活用に向けたさらなる工夫・研究を進める。	①生徒がICT機器を活用したポートフォリオ等の作成ができたか。進路や生き方の意識について変容が見られたか。 ②進路実現のための情報収集や体験学習等を通して、生徒の進路目標が明確になったか。 ③外部試験の結果を検討し、生徒にきめ細かな指導ができ、生徒の学習意欲が向上したか。					
4	地域等との協働	積極的な情報発信と保護者や地域との連携により、学校の教育力を高める。	①内容的に充実した広報活動を積極的に行う。 ②分教室や地域の小・中学校、大学、さらに企業との連携を図る。 ③PTA、学校評議員など外部人材を積極的に活用していく。	①広報活動の方法や内容を検証し、合理的な情報発信に努める。また、正確な情報発信により地域・保護者の信頼を得る。 ②地域の民間企業等との連携を推進し、地域の教育力を積極的に活用する。 ③できるだけ多くの外部人材の意見を集約できるように機会設定を工夫する。	①本校の教育活動、入学者選抜等の正確な情報を、中学校、生徒・保護者へ積極的に発信できたか。 ②地域及び民間企業と連携し、外部の教育力を活用した教育活動により、生徒の視野は広まったか。 ③外部人材の積極的活用により、教育活動の質は高まったか。					
5	学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止に努めるとともに安心安全な学校環境を維持する。	①防災訓練を通し生徒が災害から自らの生命を守るために必要な能力や態度を育成する。 ②施設・設備等の点検と整備を進める。	①防災訓練を2回(5月・9月)、DIG研修を1回実施する。 ②施設・設備等の点検と整備を行い非常用物資の備蓄管理を進める。 ③清掃の徹底など、教育環境をさらに整備する。	①防災計画の充実が図れたか。 ②施設・設備等の点検と非常用物資の備蓄管理を計画的に進められたか。 ③教育活動を行うのにふさわしい環境整備ができたか。					